

みずほマーケット・トピック(2020年9月25日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

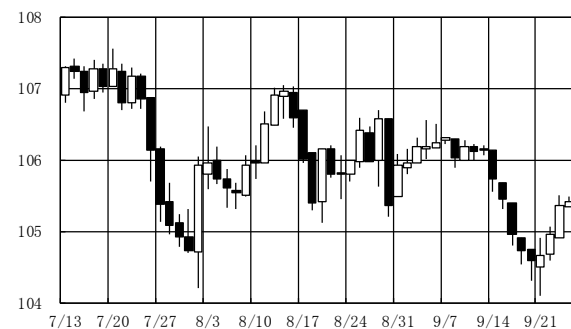
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は上昇する展開。週初 21 日、104 円台後半でオープンしたドル/円は、東京市場連休入りで薄商いとなる中、リスク回避的な円買いが強まると、一時週安値となる 104 円ちょうどまで値を下げた。その後も特段材料難な中、円の先物市場で大きな売りが持ち込まれているとの報道や米株価の軟調推移も相まってドル買いが強まると、104 円台後半まで急伸した。翌 22 日は、前日の欧米株安の流れを受けてアジア株が弱含むと、ドル/円は 104 円台前半まで下落するも、欧州での新型コロナウイルスの感染拡大のヘッドラインから再びリスクオフのドル買いが強まる展開となつて、ドル/円は 105 円台に乗せた。23 日には、株式市場が徐々にマイナス圏に下落する動きや米金利上昇も後押しし、ドル/円は 105 円台半ばまで上昇。24 日には、ドル/円は一時週高値となる 105.53 円をつけ、後半にかけても堅調な値動きが続いた。本日のドル/円は、105 円台半ばの週高値付近での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は下落する展開。週初 21 日、1.18 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.1871 をつけるも、ドル買い地合いが継続する中、ラガルド ECB 総裁の「ユーロ高が物価の下押し圧力」との発言を受けて 1.17 台前半まで下落。翌 22 日、ジョンソン英首相が、コロナの制限措置が 6 か月続く公算と発表したことを背景にドル買いが優勢となり、ユーロ/ドルは 1.16 台後半まで値を下げた。23 日にかけてもドル買い地合いが継続し、米株式市場が軟調に推移する中、欧州の製造業 PMI の弱い結果を受けて、ユーロ/ドルは、1.16 台半ばまで続落。24 日にはユーロ/ドルは一時週安値となる 1.1627 をつけたが、その後は米株式市場が徐々に上昇する動きを受けて 1.16 台後半まで回復した。本日のユーロ/ドルは 1.16 台後半を推移し、狭いレンジでの値動きとなっている。

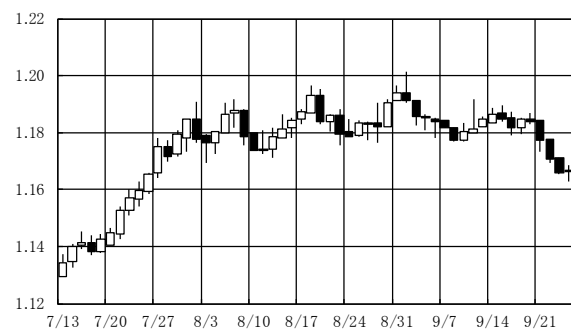
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

ドル/円相場の動向

		前週末	今 週			
		9/18(Fri)	9/21(Mon)	9/22(Tue)	9/23(Wed)	9/24(Thu)
ドル/円	東京9:00	104.71	104.55	104.71	105.07	105.31
	High	104.87	104.90	105.08	105.50	105.53
	Low	104.27	104.00	104.41	104.90	105.22
	NY 17:00	104.58	104.66	104.95	105.36	105.42
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1848	1.1845	1.1763	1.1706	1.1659
	High	1.1870	1.1871	1.1775	1.1719	1.1687
	Low	1.1826	1.1732	1.1692	1.1652	1.1627
	NY 17:00	1.1839	1.1771	1.1708	1.1661	1.1667
ユーロ/円	東京9:00	124.09	123.87	123.17	123.00	122.83
	High	124.31	123.90	123.32	123.18	123.15
	Low	123.45	122.54	122.69	122.59	122.59
	NY 17:00	123.83	123.19	122.86	122.85	123.04
日経平均株価		23,360.30	-	-	23,346.49	23,087.82
TOPIX		1,646.42	-	-	1,644.25	1,626.44
NYダウ工業株30種平均		27,657.42	27,147.70	27,288.18	26,763.13	26,815.44
NASDAQ		10,793.28	10,778.80	10,963.64	10,632.99	10,672.27
日本10年債		0.01%	-	-	0.00%	0.01%
米国10年債		0.69%	0.67%	0.67%	0.68%	0.67%
原油価格(WTI)		41.11	39.54	39.80	39.93	40.31
金(NY)		1,962.10	1,910.60	1,907.60	1,868.40	1,876.90



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、1日(木)に9月ISM製造業景気指数の発表を控える。前回8月の結果は56.0となり、7月と比較して製造業は1.8ポイント改善し、4か月連続での上昇を記録した。構成項目の内訳を見ると、新規受注指数が7月から6.1ポイント上昇し、2004年1月以来の水準を記録した、新規受注指数のうち、輸出指数は前回に続き50を上回り(53.3)、外需が持ち直しつつあることを裏付ける内容となった。一方で、在庫指数は引き続き50を下回っている状況で(44.4)、要因として新型コロナウイルスの影響によって人員不足が発生し、設備稼働状況が万全でない点が指摘された。また、入荷遅延指数は58.2と4か月ぶりに上昇に転じており、需要の回復に対して配送遅延が生じていることを示唆する内容となった。業種別では18業種中15の業種で改善が見られた。8月は経済活動が段階的に正常化しつつある状況から、本指数は堅調な推移を見せたが、9月に入り感染第二波の懸念が高まった中、感染拡大の影響を受けやすい業種での業況悪化が再度危惧される。なお、ブルームバーグの予想では、9月の結果を55.9としている。また、非製造業景気指数に関しては5日(月)の発表を予定している。そのほかの主要統計として、2日(金)には9月雇用統計の発表を控えている。
- 本邦では、1日(木)に日銀短観(9月調査)が発表される。前回6月調査では、大企業製造業業況指数(DI)が3月調査から26ポイント悪化して▲34を記録し、リーマン・ショック以来の水準まで落ち込んだ。世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、内・外需の減速が深刻化したことや、サプライチェーンの混乱が要因となった。景況感は一業種で悪化し、特に自動車や鉄鋼業の悪化が目立った。大企業非製造業DIも▲17と前回比25ポイント悪化し、悪化幅は過去最高を記録した。業種別では小売以外の全業種で悪化が見られ、特に緊急事態宣言を受けた外出自粛要請や海外からの入国規制が影響して、宿泊・飲食業や娯楽業を含む対個人サービス部門での悪化が目立った。また、中小企業DIも同様の傾向がみられた。先行きの景況感については、依然先行き不安を持つ中堅中小企業が多い中、緊急事態宣言の解除に伴って大企業では小幅な改善を見込む結果となった。なお、9月調査に関し、ブルームバーグの事前予想では足許のPMIなどの景気指数にて底打ちが確認されたほか、海外でも経済活動が正常化に向かっていることなどを踏まえ、大企業製造業DI、非製造業DIを▲22、▲9と改善を見込んでいた。そのほか、3か月後の企業による景気予測に関しても若干の改善を見込んでいる。

	本 邦	海 外
9月25日(金)	・8月企業向けサービス価格指数	・米8月耐久財受注(速報)
28日(月)	・7月景気先行CI指数(確報)	・米8月ダラス連銀製造業活動指数
29日(火)	・日銀 主な意見(9月会合分)	・ユーロ圏9月消費者信頼感指数
30日(水)	・8月小売売上高 ・8月住宅着工件数	・米4～6月期GDP(確報)
10月1日(木)	・日銀短観(9月調査)	・米8月PCEコアデフレーター ・米9月ISM製造業景気指数
2日(金)	・8月失業率/有効求人倍率	・米9月雇用統計

【当面の主要行事日程(2020年10月～)】

G20 財務相・中央銀行総裁会合(10月15～16日)

日銀金融政策決定会合(10月28～29日、12月17～18日、1月20～21日)

ECB 政策理事会(10月29日、12月10日、1月21日)

米 FOMC(11月4～5日、12月15～16日、1月26～27日)

市場営業部・金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年9月24日	為替市場を規定するユーロの値動き
2020年9月23日	越冬リスクという論点～安全資産「金」の薄さ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年8月分)
2020年9月18日	週末版(通貨高に苦しむECB～通貨政策化する金融政策～)
2020年9月17日	FOMCを終えて～日銀に似てきた情報発信
2020年9月15日	アベノミクスからスガノミクスへ～マクロ政策からミクロ政策へ～
2020年9月14日	マネー急増から何を読むべきか～「インフレの芽」なのか？～
2020年9月11日	週末版(ECB政策理事会について～実感する「ECBの日銀化」と「ユーロの円化」～)
2020年9月9日	過去の後退局面と何が異なるのか？～米雇用の深手～
2020年9月8日	ECB政策理事会プレビュー～ユーロ高けん制に動くか～
2020年9月7日	米8月雇用統計から何を読むか～「宿泊・飲食」の深手～
2020年9月4日	週末版
2020年9月3日	アベノミクス総括その②～なぜ円安になったのかを知るべき～
2020年9月2日	「真のリスクオフ通貨」になれるかの瀬戸際～試されるユーロ～
2020年9月1日	アベノミクス総括～「金融政策の無効性」という「地味な偉業」～
2020年8月28日	週末版(FRB戦略見直しとパウエル講演について～「アベレージ・ターゲット」という現状追認～)
2020年8月26日	腰折れたままの米消費者マインド～株価に連動しない誤算～
2020年8月24日	ECB政策理事会議事要旨～PEPP「全部使う」が公式見解～
2020年8月21日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～ほぼ完全に否定された米国版YCC～)
2020年8月20日	米大統領選挙・議会選挙と為替市場の関係について
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年7月分)
2020年8月18日	「ドル化した世界」におけるドル相場の限界
2020年8月17日	ECBの資産購入運営の現状～PSPPとPEPPの乖離～
2020年8月14日	週末版(ユーロ/ドルは購買力平価(PPP)に向かっているのか？～「1.20」台復帰を目指して～)
2020年8月12日	2020年上半期の円の基礎的需給環境について
2020年8月11日	全てを押し上げているのは実質マイナス金利なのか？
2020年8月7日	週末版
2020年8月4日	米製造業マインドよりも心配な米消費者マインド
2020年8月3日	「ユーロにあって円に無いもの」～基軸通貨性を考える～
2020年7月31日	週末版
2020年7月28日	「ドル売りの受け皿」がテーマ～過去最大の欧米逆転～
2020年7月27日	ユーロ上昇の理由～金利差縮小よりドル過剰感～
2020年7月22日	週末版
2020年7月21日	欧州銀行の貸出態度調査～ロックダウンの深手～
2020年7月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年6月分)
	臨時EU首脳会議で透けて見えた「第三の亀裂」
2020年7月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPは使い切り、「2つの機能」に向けて～)
2020年7月16日	ユーロ相場の近況について～上昇の瀬戸際～
2020年7月15日	臨時EU首脳会議～交錯する「2人の議長」～
2020年7月14日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2020年7月13日	ECBプレビュー～ラガルドインタビューは現状維持を示唆～
2020年7月10日	週末版
2020年7月9日	カレンシーボードに迫る脅威～米国の「諸刃の剣」～
2020年7月8日	増枠分の天井に近づいたECBの拡大資産購入プログラム(APP)
2020年7月7日	対外直接投資はこれからも増えるのか？
2020年7月3日	週末版(明らかに「物価差なき世界」～金利と共に失われる為替の変動要因～)
2020年7月2日	金価格が上がっている理由～リスクオフという方便～
2020年7月1日	円相場の需給環境～ストック円高、フロー円安～
2020年6月26日	週末版(IMF、GFSR改訂を受けて～「実力以上の株価」という必要悪～)
2020年6月25日	ユーロ相場はなぜ堅調なのか？
2020年6月23日	メルケル首相に託されたEU復興基金の先行き
2020年6月22日	ECB、「真のバズーカ」と「影の政策金利」
2020年6月19日	週末版
2020年6月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年5月分)
	香港ドル相場の現状と展望～ベッグ崩壊の現実的な可能性は～
2020年6月17日	二番底はメインシナリオの1つとして見るべきか
2020年6月15日	29年連続「世界最大の対外純資産国」の読み解き方
2020年6月12日	週末版(EU首脳会議プレビュー～メルケル首相への花道論も～)
2020年6月11日	FOMCを終えて～当分失われそうなドル/円のボラティリティ～
2020年6月9日	米国はいずれ通貨政策に訴えかけるのか？～特権の行使～
2020年6月8日	金利上昇を容認したFRBと視野に入るYCC
2020年6月5日	週末版(ECB政策理事会を終えて～2022年末までバランスシート残高は高止まり～)
2020年6月4日	明らかにされたパンデミック緊急購入プログラムのお全貌
2020年6月3日	米個人消費・所得、急変動に透けて見える日本化の胎動
2020年5月29日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～PEPPに孕む隠蔽リスク～)
2020年5月27日	最近の元安・ドル高相場の読み方
2020年5月26日	IMF「国際金融安定報告」続報から読み取れるもの
2020年5月22日	週末版(EU復興基金設立の現状と展望～立ちほだかる「新ハンザ同盟」の壁～)
2020年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年4月分)
	コロナショックは反グローバルの「とどめ」なのか？
2020年5月19日	アフターコロナの世界で定着しそうな「皮肉な株高」
2020年5月15日	週末版(マイナス金利を正当化したECB論文～「次の一手」としての深掘りを予見させるものか？～)
2020年5月14日	不安を吐露したパウエル議長とマイナス金利の足音
2020年5月12日	独憲法裁判所の判断とECB買い入れ近況について
2020年5月8日	アフターコロナはインフレか？デフレか？
2020年5月7日	アフターコロナで注目したい世界の「日本化」兆候
2020年5月1日	週末版(ECB政策理事会を終えて～形骸化する政策金利と「次の一手」～)
2020年4月28日	日銀金融政策決定会合を受けて～同調圧力への対応～
2020年4月24日	週末版(原油急落に感じる株・為替市場との差異～原油に「ごまかし」は効かず～)
2020年4月22日	拡張財政と「ドルの信認」～目先の下落は濃厚か？～
2020年4月21日	資本逃避スピードはリーマンショックの倍に～IMF報告～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年3月分)
2020年4月17日	週末版(「The Great Lockdown」で最も傷が深いのは欧州か？～IMF世界経済見通し～)
2020年4月15日	ECBの「次の一手」はYCCも視野に～工夫も必要～
2020年4月14日	「超リスクオフ」から「リスクオフ」へ～改めて米金利を意識へ～
2020年4月10日	週末版(明らかになったECB資産購入の実情～このペースではあと半年が限度～)
2020年4月9日	英国のEU離脱はどこへ～移行期間は延長不可避の情勢～
2020年4月7日	「金利差なき世界」のあるべき視座～big picture～